

自 己 評 価 表 (令和2年度)

教育方針	地域の期待に応えるため、高校生として、徳・知・体の調和のある人間づくりを目指すとともに、生徒一人一人をみつめ、その資質・個性に応じた教育を行う。	重点目標	「共に創ろう誇れる上浮穴高」 ～励ましの言葉が響き合う学舎を目指して～ 1 基本的な生活習慣の確立 2 主体的に学ぶ意欲と確かな学力の育成 3 生徒一人一人の能力・適性を生かした進路実現 4 人権意識を高める人権・同和教育の推進 5 生徒の自主性を育てる特別活動・部活動の推進 6 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
学習指導	わかる授業・鍛える授業の実施	教 師	わかる授業・鍛える授業を展開し、学習内容を定着させる。	B	・「よくできている」24%、「だいたいできている」56%、「あまりできていない」20%という状況である。	・教師はわかる授業や鍛える授業を実践しており、生徒の授業への取組は年々よくなっている。また校外での研修会にも積極的に参加をしたい。 ・相互参観授業については、参観しやすい雰囲気ができているので、気軽に参観をして研修を深めることができた。次年度も継続していきたい。
		生 徒	真剣に授業に取り組んでいる生徒100% (A87%以上B86～54%C53～21D20%以下)	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		数値目標	教師の相互授業参観 (目標値)1人3回以上100%(A87%以上B86～54%C53～21%D20%以下)	A	一人平均すると5.3回授業参観を行うことができた。	
	個に応じた指導の徹底	教 師	少人数指導や習熟度別指導を効果的に活用する。	B	・「よくできている」21%、「だいたいできている」59%、「あまりできていない」21%という状況である。	・一人ひとりに寄り添った授業ができていたので継続していきたい。今年度は習熟度の差が大きくなってきているので次年度はそれに対する対策を立てていきたい。
		生 徒	自分の目標・進路・学力にあった講座で勉学に励む。	B	・「よくできている」36%、「だいたいできている」53%、「あまりできていない」8%という状況である。	
		数値目標	個に応じた指導に満足している生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86～54%C53～21D20%以下)			
	家庭学習の習慣化	教 師	学習の方法を説明し、家庭学習の確保に努める。	B	・「よくできている」4%、「だいたいできている」56%、「あまりできていない」36%という状況である。	・年間を通して家庭学習時間の調査を定期的に行い、分析結果を職員会議等で共有して改善をするようにしている。昨年度よりは平均時間が10分程度多くなっているが、さらに適切な課題を与え家庭学習の向上を目指していきたい。 ・Classiを活用することにより、調査も簡単になっている。次年度はタブレット等を活用した家庭学習の工夫を行いたい。
		生 徒	毎日家庭学習を行う。	B	・「よくできている」15%、「だいたいできている」37%、「あまりできていない」38%という状況である。	
		保護者	子どもに家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B	・「よくできている」15%、「だいたいできている」53%、「あまりできていない」20%という状況である。	
		数値目標	毎日の平均家庭学習時間 (目標値) 120分以上(A120分以上B100分以上C60分以上D59分以下)	C	平均家庭時間は74分という結果であった。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

生徒指導	基本的なマナーの育成	教師	基本的なマナーを身に付けさせる。	B	・「よくできている」38%、「だいたいできている」55%、「あまりできていない」7%という状況である。	・ほぼ全ての生徒が、適切な言葉遣いやマナーを守って生活しており、このことは保護者からも地域の方々からも評価をされている。今後も地域からの信頼を更に高めたい。
		生徒	適切な言葉を遣い、マナーを守って生活する。	B	・「よくできている」54%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」8%という状況である。	
		保護者	子どもに適切な言葉遣いをさせ、マナーを守って生活させる。	B	・「よくできている」38%、「だいたいできている」51%、「あまりできていない」11%という状況である。	
		数値目標	基本的なマナーが守れる生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86~54% C53~21D20%以下)	A	・「よくできている」54%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」8%という状況である。	
	高校生らしい身だしなみの定着	教師	教職員が一致協力して身だしなみ指導を行う。	B	・「よくできている」34%、「だいたいできている」62%、「あまりできていない」3%という状況である。	・全ての生徒が高校生らしい身だしなみができていると考えており、このことは保護者のアンケート結果でも裏付けられている。 ・毎月実施している身だしなみ指導においても、3年生では合格率が98%と、毎回高い意識で臨んでいるので今後も継続したい。
		生徒	高校生らしい身だしなみをする。	A	・「よくできている」66%、「だいたいできている」30%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		保護者	子どもに高校生らしい身だしなみをさせる。	A	・「よくできている」60%、「だいたいできている」36%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		数値目標	身だしなみ指導の生徒合格率 (目標値) 100% (A87%以上B86~54% C53~21D20%以下)	A	全体の合格率は91%であった。学年が上がるほど合格率が上がる傾向にある。	
	規範意識の育成	教師	社会規範や公衆道徳を守る意識を育てる。	B	・「よくできている」28%、「だいたいできている」72%という状況である。	・生徒会を中心とした生徒の自主的な挨拶運動が奏功し、校内外を問わず挨拶ができる生徒が増えている。 ・ほぼ全ての生徒が交通ルールをはじめ各種の規則を守って生活しているので、今後も物事の善悪や挨拶の大切さを指導していきたい。
		生徒	校則をはじめ社会のルールをきちんと守って生活をする。	A	・「よくできている」70%、「だいたいできている」28%、「あまりできていない」2%という状況である。	
		保護者	子どもが適正な規範意識を持って行動できるようにする。	B	・「よくできている」44%、「だいたいできている」51%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		数値目標	笑顔で挨拶できる生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86~54% C53~21D20%以下)	A	学校評価員より100%できているとの報告があった。	
人権教育・特別活動	互いの思いやりと自尊感情の高揚	教師	生徒一人一人を大切にし、互いに思いやる学校づくりに努める。	B	・「よくできている」45%、「だいたいできている」55%という状況である。	・小規模ではあるが、様々な困難や悩みを抱えた生徒がおり、他者を尊重し、認め合い、思いやる気持ちを育むことは非常に大切であると認識している。いじめ問題がある場合は迅速に対応し問題の未然防止に努めている。近年スマホのSNSによる誹謗中傷が増加しているので、引き続き「心の教育」を進めていきたい。
		生徒	周りに大切にされていることを知り、自分も思いやりを持って人に接する。	A	・「よくできている」71%、「だいたいできている」23%、「あまりできていない」5%という状況である。	
		保護者	子どもはかけがえのない存在であることを伝え、他人への思いやりの心を育てる。	B	・「よくできている」42%、「だいたいできている」54%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		数値目標	差別を「しない・させない・許さない」よう心がけている生徒の割合 (目標値) 100%(A87%以上B86~54% C53~21D20%以下)	A	・「よくできている」71%、「だいたいできている」23%、「あまりできていない」5%という状況である。	
	学校行事への積極的な参加	教師	学校行事において生徒の主体的活動を引き出す。	B	・「よくできている」31%、「だいたいできている」55%、「あまりできていない」14%という状況である。	・ほとんどの生徒が、それぞれの立場で積極的に行事に参加している。今年度はコロナ禍での開催となり、その工夫が必要であったが、どの行事においても学校全体で一致団結することができたと思う。次年度も状況に応じて行事を盛り上げていきたい。
		生徒	体育大会や文化祭など学校行事に主体的に参加する。	A	・「よくできている」65%、「だいたいできている」26%、「あまりできていない」8%という状況である。	
		保護者	学校行事に関心を持ち、子どもが主体的に参加できるように心がける。	B	・「よくできている」26%、「だいたいできている」65%、「あまりできていない」9%という状況である。	
		数値目標	学校行事に主体的に参加している生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86~54% C53~21D20%以下)	B	・「よくできている」65%、「だいたいできている」26%、「あまりできていない」8%という状況である。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：成果がなかった）とする。

進路指導	進路先の具体化	教師	生徒一人一人の進路先の具体化を図る。	B	・「よくできている」29%、「だいたいできている」61%、「あまりできていない」11%という状況である。	・今年度はコロナの影響で就職時期が遅延してしまいましたが、一定の成果を収めることができました。就職や進学については入学時からの積み重ねが大切なので、継続的な指導を行っていききたい。
		生徒	進路情報を参考に、自分の希望する進路（進学・就職）を決定する。	B	・「よくできている」41%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」14%という状況である。	
		保護者	時機をとらえて進路について子どもと話し合う。	B	・「よくできている」41%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」17%という状況である。	
		数値目標	就職内定率、希望進学率 (目標値) 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	希望就職内定率94.7% 希望進学率87.0%であった。	
	面接指導の充実	教師	就職及び進学のための面接を積極的に行う。	B	・「よくできている」36%、「だいたいできている」61%、「あまりできていない」4%という状況である。	・生徒一人ひとりと面談を重ね、本人の希望や将来の展望について詳しく把握することができた。人数が少ないので丁寧な指導が可能だと思うので、次年度も続けていきたい。
		生徒	進路について教師や保護者に自主的に相談する。	B	・「よくできている」47%、「だいたいできている」32%、「あまりできていない」20%という状況である。	
		数値目標	生徒1人に対する年間面接回数 (目標値) 10回以上(A10回以上B8回以上C5回以上D4回以下)	A	1人あたり10回以上の面談ができた。	
	キャリア教育の充実	教師	進路意識の高揚を図るため、3年間を見通した計画的な指導を行う。	B	・「よくできている」25%、「だいたいできている」64%、「あまりできていない」11%という状況である。	・総合的な学習において、地域の様々な職種の方々に来校していただき、講話をしていただいた。地域を理解するだけでなく個人の職業観を養う上でも貴重な体験であったと思うので、次年度も継続していききたい。
		生徒	働くことや職業について興味や関心を持ち、それについて調べる。	B	・「よくできている」25%、「だいたいできている」37%、「あまりできていない」34%という状況である。	
保護者		働くことや職業について話し合い、子どもの考えを深める。	B	・「よくできている」41%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」17%という状況である。		
開かれた学校づくり	地域交流の充実	教師	「多世代交流」や「カルチャー教室」を実施し、地域交流を図る。	B	・「よくできている」16%、「だいたいできている」43%、「あまりできていない」25%という状況である。	・今年度はコロナの関係で、ほとんどの地域行事が中止となり参加ができなかったが、リモートを使っての小学校との交流を実施することができた。次年度もICTを使っての交流を工夫していききたい。
		数値目標	地域の活動・ボランティア活動参加生徒 (目標値) 森林環境科 1人15回以上 普通科 1人1回以上100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	コロナの影響でほとんど交流ができなかった。普通科の地域交流ができた生徒は55%であった。	
	「上高通信」とHPの充実	教師	「上高通信」、HPの内容の充実を図る。	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」3%という状況である。	・刊行物については、例年どおりの発行はできた。ホームページについては動画配信を含めて年々充実をしてきていると思う。アクセス数も多いので、次年度も全国募集等に向けて、さらにわかりやすい情報発信を積極的に行っていききたい。
		生徒	「上高通信」、HPを見て、学校の諸活動を理解する。	B	・「よくできている」35%、「だいたいできている」39%、「あまりできていない」20%という状況である。	
		保護者	「上高通信」「進路ニュース」等を読み、子どもと学校のことを話し合う。	B	・「よくできている」37%、「だいたいできている」42%、「あまりできていない」19%という状況である。	
		数値目標	「上高通信」「進路ニュース」等の発行数 (目標値) 20回以上(A20回以上B15回以上C10回以上D9回以下)	B	16回発行することができた。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

開かれた学校づくり	学校行事や授業の公開	教師	学校行事や授業公開等において参加が増えるよう工夫する。	B	・「よくできている」31%、「だいたいできている」55%、「あまりできていない」14%という状況である。	・コロナの影響で、保護者の方々にも来校を促すことができなかった。体育祭や文化祭においても少人数での参加をお願いした。来年度、状況を見ながらはあるが、多くの人に参加してもらえるようにしていきたい。
		生徒	学校行事や授業公開等において保護者に参加するよう依頼する。	C	・「よくできている」16%、「だいたいできている」28%、「あまりできていない」36%という状況である。	
		保護者	学校行事・授業公開等に参加する。	B	・「よくできている」26%、「だいたいできている」65%、「あまりできていない」9%という状況である。	
		数値目標	公開授業参観者数 (目標値) 100名以上 (A100名以上B80名以上C50名以上D49名以下)	A	103人という結果だった。	
働き方	業務改善	・学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。 ・IT機器等の有効利用や、仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図る。	B	少人数の職場なので、連絡を密にすることができた。 コロナでの休校の影響もあり、ICTの研修を数多くすることができた。	・テレワークや時差出勤を利用する職員も多く、全体的にそれを温かく容認する雰囲気づくりができている。全職員のワークライフバランスがとれるように次年度も努力していきたい。	
	勤務時間の順守	勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	平均10人程度の職員が45時間を超えている。		

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。